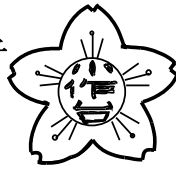


よく考える子  
思いやりのある子  
げんきな子



# 学校通信 小作台

第12号(2月号)  
令和8年1月29日  
羽村市立小作台小学校

## 『Society(社会の姿)6.0に向けて』

校長 清水 治彦

私たちの社会は、長い時間をかけて姿を変えてきました。

**Society1.0** は、狩りや採集を中心とした社会です。自然の中で生きる知恵や、仲間と助け合う力が大切にされていました。日本で言えば縄文時代以前がそれにあたるのでしょう。

**Society2.0** は、農耕社会です。作物を育て、季節を読み、計画的に暮らす力が求められました。弥生時代以降江戸時代くらいまでを指していますね。

**Society3.0** は、産業革命以降の工業社会です。機械による大量生産が進み、効率やスピードが重視されました。明治後期から昭和中期あたりでしょうか。

**Society4.0** は、情報社会です。コンピュータやインターネットが普及し、情報を集め、選び、活用する力が重要になりました。私の感覚では1980年以降のイメージがあります。

そして現在、私たちはすでに **Society5.0** の真っ只中にいます。**Society5.0** とは、現実世界と仮想空間が高度に融合した「超スマート社会」です。AI やビッグデータが私たちの生活や仕事に深く関わり、判断や行動を支えています。技術そのものが目的ではなく、人の幸せや社会の課題を解決するために活用されることが特徴です。

改めて各時代の社会の様子を振り返ると、社会の変化のサイクルがどんどん早くなっていることがわかります。

やがてさらにその先の社会、いわば「**Society6.0**」とも言える時代が訪れるでしょう。様々な文献を調べてみると、そこでは、技術や社会の変化がこれまで以上に短い周期で起こり、先を正確に見通すことが難しい状況が続くと考えられます。将来を一つの正解として描くことが難しくなる中で、その時々状況に応じて考え、選択していく力が求められます。

このような時代を生きる子供たちにとって、学校教育で大切にしたいことがあります。まずは基礎的な学力の定着です。これは、どの時代でも学びの土台です。その上で、自分で考え、判断し、他者に伝える力、そして失敗しても立ち止まり、学び直す力を育てていくことが重要になります。また、AI やデジタル技術を使いこなす力だけでなく、人の気持ちを想像する力、協力する力、思いやりや責任感といった、人と人との関わりの中で育つ力は、これからの社会でますます欠かせません。どれだけ技術が進歩しても、人が人としてどう生きるか、つまり「より良く生きる力」が問われ続けるからです。

学校は、知識を教える場であると同時に、子供たちが安心して挑戦し、失敗から学び、成長していく場所です。ご家庭と学校が同じ方向を向き、子供たち一人一人の可能性を大切にしながら、「未来を生き抜く力」を育てていきたいと考え、次年度の計画を立てているところです。